

美術館の展示会

2020 年度

コレクションギャラリー1

石田尚志展

会期：2月15日(土)>>>10月11日(日)



《渦巻く光》2015年

昨今、現代美術及び映像の領域で大きな注目を集める石田尚志(いしだ・たかし 1972-)。抽象的な線を少しずつ描いてはコマ撮りするという行為を繰り返して、「動く絵(ムーヴィング・ピクチャー)」を創り上げます。本展では、石田の代表的な映像作品を紹介します。

コレクションギャラリー2

大城精徳の仕事

会期：2月15日(土)>>>10月11日(日)



大城精徳《有刺鉄線の島》1961年

本展は、大城精徳(おおしろ・せいとく 1928-2007)の絵画と資料群が一堂に会する展示会です。大城は、沖縄の画家・名渡山愛順に師事し琉球美術展をはじめ、戦後草創期のグループ展に名を重ね、琉球政府立博物館の学芸員を辞してからは琉球文化社を設立し、雑誌「琉球の文化」を刊行、美術工芸論の発展に寄与しました。今回は未発表の油彩と水彩20点の作品と、資料群を展示します。

コレクションギャラリー1

山田實〈こどもたちのオキナワ〉

会期：10月20日(火)>>>2021年6月27日(日)



山田實《元気な子供たち・豊見城村》1962年

山田實(1918-2017)は沖縄那覇市出身の写真家で、沖縄に住む子どもたちを数多く撮影しています。召集を受けて戦地に赴き、戦後、抑留を経て生還した山田は、戦禍による荒廃から復興する沖縄を巡り、苦境にありながらも健気に生きる子どもたちを撮り続けました。今回のコレクション展では、当館所蔵の山田實作品から〈こどもたちのオキナワ〉シリーズを紹介します。

コレクションギャラリー2

子どもの情景

会期：10月20日(火)>>>2021年6月27日(日)



安谷屋正義《まんま》1961年

本展は、当美術館のコレクションのなかから「子ども」にスポットをあてて、絵画や写真などの作品を30点から40点ほど紹介するものです。テーマは「子どもから見た大人の世界」と「大人から見た子どもの世界」との二つに分けて、アートを通じて感じられる、社会のありようを紹介します。

企画ギャラリー1・2

稲嶺成祚展

会期：9月18日(金)>>>11月3日(火)



稲嶺成祚《太陽と5人の家族》2002年

記号的な人物や動植物を描く画家・稲嶺成祚(1932-)は、「何を描くかも大事だが、どのように描くかに、より重大なメッセージが入る」と語り、自らの画面を様式化することを試みています。本展では、写実的に描いていた初期の作品から、近年に至るまでの変遷をたどり、その魅力を紹介します。

企画ギャラリー1・2

石川真生展

会期：2021年3月5日(金)>>>6月6日(日)



海外でも広く紹介され、いまなお精力的な制作活動を続ける写真家・石川真生(1953-)。その写真には、それぞれが抱える矛盾や葛藤だけでなく、それでもなお共存する人々の生そのものの力強さが写されています。本展は、作家所蔵のプリントを中心に、初期作品から近年にいたるまでの写真をシリーズごとに紹介する本格的な個展となります。撮影した人々の思いを得て生み出される石川真生の写真を、ぜひご覧ください。